



確実な情報管理が求められる不動産業界 CISSPは、システムの構築・運用と社内の 体制づくりの両面を支えています

小田急不動産株式会社

資格取得推進のポイント

● 経営課題・ビジネス背景

情報漏えいが即ち、社会的信用の失墜につながるセンシティブな個人情報を持っている。

● 導入目的

情報システムグループのリーダーとしてセキュリティについての体系的な知識が必要であった。

● 導入プロセス

効率的かつ効果的に知識を習得するためにCISSP CBKマスター講座を受講した。

● 取得効果

企業の社会的責任に対する取り組みにつながる従業員の意識を高めるルールづくりができた。

小田急線沿線を中心に、戸建住宅・マンションの分譲、仲介から賃貸オフィスビル経営まで、幅広く手がける小田急不動産株式会社様。業務上、お客様の個人情報に触れる機会が多い不動産業界では、セキュリティの強化とコンプライアンスの確立が強く求められています。そこで、経営企画部 情報システムグループリーダー 長嶋 豊 氏に、セキュリティ対策の取り組みや、CISSP認定資格の取得理由とその活用方法などについて語っていただきました。

根っからの文系人間がセキュリティのプロフェッショナルに

当社が展開する30余りの支店・店舗、販売センターのシステム環境構築・運用を、私を含めた4名の情報システムグループメンバーで行っています。情報システムグループは、基幹システムほかのダウンサイジングで運用・管理の負荷が軽減したことに伴い、各部署でも十分に対応可能であろうとの判断から一旦は解散していたのですが、個人情報保護法をはじめとする全社的な経営課題に取り組むため、2004年に改めて経営企画部の中に復活しました。しかし、まず直面したのは、残された準備期間の短さと、何よりも情報セキュリティについてのスキル不足でした。私自身が大学は文学部

の出身で会社では人事畑が長く、ITについては全くの門外漢でしたので、ベンダーからセキュリティソリューションの提案を受けても、どのような視点で検討すればよいのかすら分かりません。とりあえず、セミナーへの参加で得た泥縄の知識と社外コンサルタントの活用で個人情報保護法に関わる整備は乗り切ったものの、継続的にマネジメントサイクルを回していくためには、きちんとした知識を身につけることが必要と考え、効率的かつ効果的に学べる方法を探した結果、たどり着いたのがCISSP認定資格でした。

目的は資格の取得ではなく日常業務に活用できる知識を効率的かつ効果的に身につけること

個人情報保護法に対応できる社内体制づくりのために独学で修めた情報セキュリティについてのスキルがどの程度のものかの腕試しという意味から、あるセキュリティ資格を受験し合格しましたが、カリキュラムが体系化されていないため本当に情報セキュリティについて網羅的に知識を得たとい

う自信が持てず、合格そのものも「運がよかっただけ」と感じていました。加えて、資格取得後に知識をアップデートする制度もなく、このままでは確実にスキルが風化していくだろうと思えたことから、もっと体系的かつ実践的に情報セキュリティについて学べる機会を探していました。そんな時にたま

情報セキュリティの標準化された 知識を体系的に習得 CISSP認定資格は、 ゼロから始めた私に道を 拓いてくれました

小田急不動産株式会社
経営企画本部 経営企画部
情報システムグループ
リーダー、CISSP

長嶋 豊 氏



たま見つけたのが、工学院大学で開講されているCISSP CBKマスター講座でした。CISSP CBKマスター講座が私のニーズに合致したのは、資格取得だけを目的としたセミナーではなく基本からじっくり学べる内容だったということです。また、会場が職場の近くにあったことも受講の決め手となりました。週2回3カ月間、仕事を終えた後の午後6時30分からの2時間、10ドメインの共通知識分野をみっちり学んだことにより、専門技術や概念の知識を得ることができました。加えて、各ドメインの繋がりやさまざまな状況における最適な判断基準なども理解できましたので、情報セキュリティのベストプラクティスを身につけることができましたと考えています。講座費

用は個人で負担するには厳しいものでしたが、得られたことに対して十分に納得のいく金額だと思います。試験は、そもそもが資格取得よりも体系的な学習が講座受講の目的だったため当初は真剣に考えていなかったのですが、継続的な学習へのモチベーションにつなげるためには取っておいたほうがよいのではと思い直し講座修了試験のつもりで受けてみたところ、残念ながら1回目はほんの少しの得点差で落ちてしまい、癪だったので翌月にキャンセル待ちで再受験し合格しました。不合格の通知時にはどこが出来なかったかも示してくれるので、弱点を1カ月間で集中的に強化することができました。

従業員の意識を高めるための情報システムの基本ルールにはCISSP認定資格の理念が生きています

不動産業界は、金融や医療といった業界に負けず劣らず、非常にセンシティブな個人情報を管理するリスクを負っています。お客様の年収や資産状況、家族構成、ときには不動産売却の理由などデリケートな問題をはらむ情報を日常的に取り扱い、情報漏えいが即ち、社会的な信用失墜につながります。しかし、開放的でお客様の出入りの多い店舗や仮設の現地販売センターでこのような情報を取り扱うことは、常に盗難等のセキュリティリスクが付きまといまいます。また、従業員の行動は、お客様の利便性に答えることが優先され情報セキュリティについてはどうしても二の次になりがち

です。内部統制など企業の社会的責任が求められるようになる中で、当社でも2008年に情報セキュリティを含む社内の情報および情報システムの取り扱いについての基本的なルールを策定しました。その際に前提としたのが、CISSPのCBKで情報保護の基本要素となるA-I-Cです。Availability(可用性)、Integrity(完全性)、Confidentiality(機密性)の3要素の中で、最も重要なものは「A(可用性)」であると考えに立ち、「情報は使うためにあるのであり、より適切に使うためにセキュリティを含む管理が重要となる。」ことをルールの基本としています。

資格の取得を通して獲得したスキルを成果につなげることが求められています

不動産業界には、宅地建物取引主任者や建築士など業法に基づき従事する、資格を持たないと行うことができない業務があるため、当社でも資格の重要性は強く認識されています。情報システムグループでも、スキルレベルの証明にセキュリティ関連を含む資格取得をメンバーに推奨し援助していますが、情報システムのいちユーザー企業である当社において

は、システム関係資格の保有をもって評価されることは残念ながらありません。しかし、そのスキルによって業績に貢献すれば確実に評価につながります。私自身も、CISSPとしてのスキルを活用し、社内の情報セキュリティの向上という成果を今後も着実に達成していくことが求められています。